

「主な取組の進捗状況・いわて復興インデックス」の公表について

資料3-2

【要旨】

復興推進プランの進行管理ツールとして公表している「主な取組の進捗状況・いわて復興インデックス(令和2年6月30日現在)」を取りまとめましたのでお知らせします。
なお、本件につきましては、本日、ホームページにおいても掲載予定です。

1 復興道路の整備状況(安全の確保) [p24]

令和2年6月30日現在の復興道路整備事業において、三陸沿岸道路は、事業化延長213kmに対して供用延長は137km、進捗率は64%、東北横断自動車道釜石秋田線は、事業化延長80kmに対して供用延長は80kmとなり全線が開通しており、宮古盛岡横断道路は、事業化延長66kmに対して供用延長は33km、進捗率は50%であり、全体として事業化延長359kmに対して供用延長は250km、進捗率は70%である。

路線名		三陸沿岸道路	東北横断自動車道 釜石秋田線	宮古盛岡 横断道路	合計
事業化延長 [計画延長] (km)		213 [213]	80 [80]	66 [100]	359 [393]
着工済	延長(km)	213	80	66	359
	率(%)※	100%	100%	100%	100%
供用中 (R2.6.30 時点)	延長(km)	137	80	33	250
	率(%)※	64%	100%	50%	70%
＜参考＞ 供用中 (R2.7.12時点)	延長(km)	154	80	37	271
	率(%)※	72%	100%	56%	75%

2 「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の運用(未来のための伝承・発信) [p46]

東日本大震災津波の被災と復興から得た教訓を国内外の防災活動や防災教育に生かすため、震災津波関連資料の収集と、資料を検索・閲覧できる「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の活用を促進している。

令和2年4月～6月のアクセス数は82,847回と好調であり、当アーカイブの情報が新聞等で紹介されたことや、教員の「調査・研究」に係るダウンロード数の増加等により、アクセス数が増えたと想定される。

復興推進プラン (事業実施期間：R1～R4)	全体計画値 (R1～R2計画値)	R1～R2実績値	全体進捗率 (R1～R2進捗率)
「いわて震災津波アーカイブ～希望～」アクセス数	675,000回 (331,000回)	308,189回 (R2.3.31比 +82,847回)	45.7% (93.1%)

裏面に続きます

3 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) 沿岸地域の有効求人倍率<復興インデックス>

令和2年6月における沿岸地域の有効求人倍率は前年同月と比べると0.2減の1.00となっている。

	平成30年 6月	9月	12月	平成31年 3月	令和元年 6月	9月	12月	令和2年 3月	6月	<参考> 7月
有効求人倍率	1.37	1.47	1.57	1.23	1.2	1.33	1.36	1.01	1.00	1.06
前回差	+0.04	+0.10	+0.10	-0.34	-0.03	+0.13	+0.03	-0.35	-0.01	+0.06

(2) 鉱工業生産指数(全県)[令和2年5月:-21.4%(前年同月比)]<復興インデックス>

令和2年5月における県全体の鉱工業生産指数(原指数、速報値)は前年同月比21.4%減の83.2となっている。

	平成30年 5月	8月	11月	平成31年 2月	令和元年 5月	8月	11月	令和2年 2月	5月	<参考> 6月
鉱工業生産指数	99.4	107.5	110.5	104.6	105.8	100.7	108.5	100.7	83.2	91.4
前年同月比	+5.6%	+17.2%	+11.1%	+10.2%	+6.4%	-6.3%	-1.8%	-3.7%	-21.4%	-12.9%

(3) 県内主要観光地における観光客入込状況

令和2年4月～6月における県内主要観光地の観光客入込状況は前年同期間比11.8%の19.4万人回となっている。

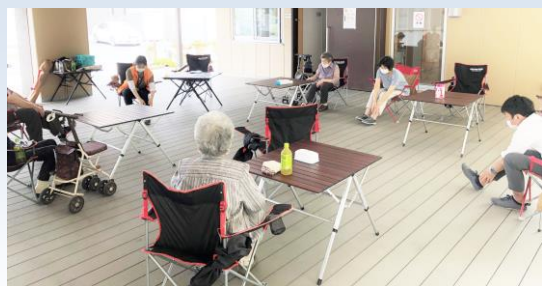
期 間	入込客数
令和2年4月～令和2年6月(暫定値)	19.4万人回
平成31年4月～令和元年6月	164.2万人回
平成30年4月～平成30年6月	165.9万人回
対前年同期間比※	11.8%
対前々年同期間比※	11.7%

※「万人回」単位ではなく「人回」単位で算出した比率

(4) 新型コロナウイルス感染症対策の取組

被災地における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、様々な取組を行っている。

- 被災地におけるコミュニティ支援方法について、岩手県社会福祉協議会と連携し、新しい生活様式に沿った支援方法をまとめた「新型コロナウイルス感染症対応に係る生活支援相談員活動マニュアル」を作成し、地域で支援等に取り組んでいる方々に御活用いただいている。
- 東日本大震災津波伝承館では、赤外線サーモグラフィーを使った体温チェックや館内の定期的な換気等の3密対策等を行っている。



災害公営住宅(大槌町)における
サロンでの体操風景



東日本大震災津波伝承館の
サーモグラフィーカメラ

【担当】復興推進課

[統括的事項] 総括課長 大坊(内線 6921)

[記載内容等] 主幹兼推進協働担当課長 米内(内線 6946)